第４回小平市長期総合計画基本構想審議会　会議録（要旨）

開催日時	令和２年１月９日（木）午前10時から11時45分
開催場所	小平市役所５階　504会議室
出席者	・委員18名 髙橋裕子会長　栗山丈弘副会長 伊藤規子委員　加藤順子委員　川口幸子委員　川地保宣委員 金子惠一委員　齋藤啓子委員　市東和子委員　鈴木庸夫委員 出口みちたか委員　橋本直子委員　古川満久委員　細江卓朗委員 松尾早智子委員　松田肇委員　宮奈彰男委員　矢口誠委員 ・事務局３名 企画政策部長　企画政策部総合計画担当課長 企画政策部政策課長補佐兼総合計画担当係長 ・傍聴者４名
会議次第	１　（仮称）小平市第四次長期総合計画の骨子案の検討
配布資料	事前送付資料 資料１　（仮称）小平市第四次長期総合計画基本構想の答申に向けた今後の審議会の進め方 資料２①（仮称）小平市第四次長期総合計画　骨子案《意見募集用》 資料２②（仮称）小平市第四次長期総合計画　骨子案（別紙）「めざす将来像」《意見募集用》 資料２③（仮称）小平市第四次長期総合計画　骨子案について 資料２④骨子案に対する意見募集に係る実施予定事項について 資料３　小平市第三次長期総合計画と連動する個別計画等 資料４①3つの基本目標を達成するための持続可能な行財政運営 資料４②「持続可能な行財政運営」検討の背景等 資料５　（仮称）小平市第四次長期総合計画基本構想審議会スケジュール（案） 資料６　第２回（令和元年９月26日開催）小平市長期総合計画基本構想特別委員会要旨 当日配付資料 （仮称）小平市第四次長期総合計画策定状況　ニュースレター （仮称）小平市第四次長期総合計画「骨子案」に係る意見募集用チラシ

開会	
１　（仮称）小平市第四次長期総合計画骨子案の検討	
事務局	資料１に沿って説明。
委員	（質疑なし）
事務局	資料2①、資料2②に沿って説明。
会長	本日は、骨子案の最終調整を行う。事前に委員よりご意見をいただいているので、

	まずはその内容から共有したい。
事務局	事前にいただいたご意見の 1 点目として、資料 2①基本構想の「取組の方向性」の中で、「くらしづくり」をひらがな表記としている。一方、本文中に出てくる「暮らし」は漢字表記となっているので、統一したほうがよいのではとのご意見をいただいた。事務局としては、基本目標に掲げる「くらしづくり」はタイトル的要素もあることからひらがな表記で、本文中の「暮らし」は漢字表記で統一したいと考えている。
会長	基本目標はひらがな表記、本文中は漢字表記で統一ということでよろしいか。
委員	（了承）
事務局	事前にいただいたご意見の 2 点目として、同じく資料 2①右上の計画の背景の「小平市の特性」のうち、上から 4 つ目の学園都市に関して、7 つの大学等や 6 つの高校をはじめ、と記載している。小平市の大学連携協議会に加盟の 7 校からとったものであるが、加盟していない学校も含めて 9 校あるのではとのご意見をいただいた。どこまで含めるのかということもあるが、表現方法について検討させていただく。
会長	小平市の特色として、二桁近いほどの大学や大学校があるということが一番言いたいことである。この件については、再度事務局でご検討いただくということでよろしいか。
委員	（了承）
事務局	事前にいただいたご意見の 3 点目として、同じく「小平市の特性」のうち、上から 5 つ目の地域資源に関しては、今後まちづくりを進めていく上での魅力や強みの要素として、市民意見から「小平市の好きなところ」に対して多く出された意見を骨子案の中でまとめた。記載の内容以外にも、学習で使われている平櫛田中彫刻美術館、鈴木遺跡、ふれあい下水道館なども入れたほうが良いのでは、とのご意見をいただいた。今後肉付けを行っていく際に、何を盛り込むのか、市民の皆さんと何を共有していくのか検討していきたいと考えている。
会長	地域資源について、骨子案の段階では全てを網羅することが難しいということもあり、素案作成にむけて具体的に考えていくということでよろしいか。
委員	（了承）
事務局	事前にいただいたご意見の 4 点目として、同じく資料 2①基本構想の「取組の方向性」の基本目標Ⅱくらしづくりには、地域共生社会の視点が入っている。こうしたことから、例えば、国立精神・神経医療研究センターや東京障害者職業能力開発校、東京都立小平特別支援学校などにも触れられると良いのではというご意見をいただいた。いただいたご意見も踏まえ、素案を検討していきたいと考えている。
会長	基本目標Ⅱに関連する内容については、今後素案作成に向けていただいたご意見も踏まえていくこととする。
委員	（了承）
会長	他に、皆様の方からお気づきの点などはあるか。
委員	資料 2②の下に書いてあるビジョン例の中に「プチ田舎」という表現がある。一方

	で資料 2①にあるように小平市には鉄道駅が 7 駅あり、都心等へのアクセス性が良いという意見もある。相当な乗降客もいる中で、「プチ田舎」や「田舎街」といった表現については適切ではないように感じる。
委員	資料 2②のビジョン例の中で、「こだいらをふるさとにする」という表現を使われているが、「ふるさと」という概念をどのように捉えて、市民の皆さんに伝えるのか。
事務局	市民の皆さんからも「ふるさと」というキーワードを一定程度いただいている。小平市に住んで、一度は他に出ていったとしてもまた戻っていただけるであるとか、子育てしやすいまちとして、子どもが生まれたら小平市を選んでいただくといったようなイメージでいる。
委員	資料 2①の「小平市の特性」の中で、「都心等へのアクセス性が良い」という表現が使われていることからも、小平市在住の方々は都心に勤務されているのではないか。都心から戻って小平市で生活をされているということであれば、生活文化都市として機能し、また快適な学園都市でも、緑豊かな学園都市でもあると思った。地方都市であればそのように言えるかもしれないが、東京都小平市という、都心にも近いことからも、「ふるさと」という言葉がどのような響きをもっているのかと感じた。「ふるさと」は遠くにあって想うもの、というイメージがあり、今の世の中の動きであるとかグローバル化を考える際に、その表現の意味合いが非常に重要になってくるのではないか。
会長	さきほどのご意見にもあった「田舎」や「ふるさと」というイメージを小平市として、自ら外に出していくべきか、それとももう少し違う動きになっているのではというご意見である。「田舎」や「ふるさと」という表現は、玉川上水をはじめとして、これだけ緑が豊かであるというようなことを伝えたいということでもあろうかと思う。
委員	小平市で子育てをし、大きくなって子ども達は巣立っていくかもしれないが、小平で育ったということに対する「ふるさと」というものは、やはり歴然としたものがある。何百年続いている小平市の歴史を考えたときに、「ふるさと」は拠り所としてのものであるわけで、「プチ田舎」とは多少離して考えても良いのではないか。今、小平市は子育てをするのに良い環境であり、それに向けて頑張っている部署もたくさんある。これからの子どもに対しての「ふるさと」というものの土台を作っていく想いが非常にあるのではないか。
委員	その意味合いもあるとは思う。これからの 12 年後を考える時に、5G が世界に浸透し、グローバル化のなかで世の中が動いていくので、都市であっても「ふるさと」の要素があるとは思うが、「ふるさと」をどのようなイメージで共有するのか。
委員	世代によって小平市をみる視点というのは違っている。70 代、80 代ぐらいの方は、だいたい地方で産まれて暮らして、東京に出てきて、小平市を選んでお住まいになっている。40 代から 60 代の方たちは、すでに東京で育っていらっしゃる方である。現在学生で、このまま小平市に住み続けたいと思う方もいるかもしれない。それぞれの世代によって「ふるさと」の意味、使い方は違うと思っている。これから将来

	の計画をつくる時の「ふるさと」という言葉の使い方は、キーワードになるのではと思った。景観は変わっていくけれども、心の拠り所としてずっと持っていたいものが皆さんにあろうかと思う。愛着というようなキーワードもある。
委員	「プチ田舎」というキーワードについては、小平市観光まちづくり振興プランの中でキャッチフレーズとして使われている言葉であり、計画が出来てからもう 6 年ぐらい経つ中で一定の定着をしてきているというところも見られる。資料 2②の将来像の例は、市民ワークショップ等から出された例として掲げられているもので、「プチ田舎」という言葉について共感をもっている人は一定数いるということを示していることだと思う。
委員	一定の定着はしているということの一方で、適切ではない、という意見があることも、再度承知をしていただきたい。
委員	もともと小平市には学園都市というキャッチフレーズがあった中で、特に観光として発信する際に「プチ田舎」が出てきたのであろう。長期総合計画では、田舎を目指すのか、ふるさとを目指すのか、都心に近いまちを目指すのか、学園都市を目指すのか、その方向はこれから決めていけば良いと思う。
会長	資料 2②の将来像に関する内容についてはよろしいか。
委員	（了承）
事務局	資料 2③、資料 2④、資料 3 に沿って説明。
委員	企業との意見交換を予定されているが、具体的にどこを想定されているのか。
事務局	市報 1 月 20 日号で、骨子案に対する意見を募集する。その中で、意見交換が可能な事業者を広く公募する。合わせて、産業部署を通し、いくつか声をかけているところである。包括的な連携協定を締結している大学等にも声をかけさせていただく。
事務局	資料 4①、資料 4②に沿って説明。
委員	今後社会保障関係経費が増えていくということであるが、近いところで 2025 年にはいくらになると想定されるのか。市の財政推計について誰も知らない。持続可能な行財政運営を検討していく上では、分かりやすい推計が必要である。
事務局	財政推計に関しては、基本構想の下に位置付けている、市が何を実施していくのかを示す「新 中期的な施策の取組方針・実行プログラム」の中で、4 年間の財政推計を示している。しかしながら、長期総合計画の期間である 12 年間の推計を出した方が良いのではないかなど様々にご意見をいただいている。どこまでということもあるが、審議会で討議するための資料として何が用意できるか調整したい。
事務局	資料 5、資料 6 に沿って説明。
委員	（質疑なし）
会長	全体を通して皆さんの方から何かご意見やご質問等お願いする。
委員	基本目標Ⅰから Ⅲまで、わかりやすい、落ち着いた表現であることは評価している。一方で、これから激動の時代がやってくるということが世の中では言われているが、小平市はこうした落ち着いたトーンで進めて大丈夫なのかという感想を持った。例えば基本目標Ⅰで「新たな価値を創造する」という目標を掲げているが、新たな価

	値とは何か。ここから先、どのように素案に落としていくのかこの段階では想像ができない。また、基本目標Ⅲの「魅力あるまち」という目標を掲げているが、何を魅力あるまちとして出すのかしっかり議論をしていく必要があると感じた。基本目標Ⅱの「多様性を認めあい、繋がり、共生するまち」という目標についても、現状は他市と変わりはないかと思う。それをどのように具体的に「小平市は共生するまちとして素晴らしい」というようなところにまで市民の皆さんに感じてもらうのか、これから素案の段階で問われていく気がする。
委員	「新たな価値を創造するまち」という目標は、逆に素晴らしいと思ったところである。具体的な施策として見えない部分はあるが、「新たな価値」という時には多様性がキーワードになるのではないか。小平市自治基本条例の中に、「お互いの人権を尊重し、違いを認め合い」と書いている。多様性を考える時には、例えばダイバーシティやインクルージョンなどの意味合いをみることができる。「新しい価値」はイノベーションという言葉に、「創造する」はクリエイティブという言葉につながる。資料6を見ると市議会特別委員会でも Society 5.0 に関する意見が出ている。Society 5.0 時代や 5G の世界を考える時には、まだ見えない部分があるにせよ、対策を講じていく必要性があるのではないか。この「新たな価値を創造するまち」には、そういった意味合いが込められているのではないかと感じた。同時に、基本目標Ⅱの「多様性を認めあい」にもダイバーシティやインクルージョンといった意味もある。基本目標Ⅲの方針3では「活力」という言葉が入っているが、基本目標の中に「活力」という言葉が入らないのかと感じた。、資料6では、市議会特別委員会においても企業を大切にすることや大企業の誘致も大事であることなどの意見が出されている。財政運営上、税収や地域経済の活性化にも通じていくこととして、非常に重要なポイントではないか。
委員	資料 2①の「小平市を取り巻く状況」の中で人口減少について記載がある。生産年齢人口が減少し、今後働き手が減っていく。高齢化が進み、若い人が減っていく時代を乗り越えていかなければならない。このことに関してもしっかり議論する必要がある。人口とともに生産年齢人口が減少することに関する代替案としては、元気な高齢者には働いていただくことや、女性の社会進出がある。そのためには、女性が働きやすい環境を整えていく必要がある。外国人の方も、現在は日本が経済的に豊かで魅力があるから日本で働いていただいていると思うが、母国の方が経済発展していくと日本に来る必要がなくなる。そういうことも見据えながら検討できると良い。75 歳以上になると介護を受けている人が非常に多く、クリニックにもたくさんの方がいらっしゃる。これからそういう方が増えてくると、人手が介護するためのマンパワーに取られてしまう。介護に関連する推計を示していく必要があるのではないか。
事務局	審議会の中でも、人口減少、高齢化に関する課題については、「高齢者イコール福祉ではない」であるとか、「人生 100 年時代」というご意見をいただいた。今回、骨子案の中では、高齢者という言葉を除いたところも特色と考えている。高齢者という概念が恐らく変わってくるであろう。現在の生産年齢人口は 65 歳までとなっている

	が、もっと伸びるであろうということもある。そうしたことから、基本的にはひとづくりの中で、「全世代、元気にはつらつと過ごす」ということを掲げた。基本的には元気な方には、頑張っていただく。支援が必要な方は、「くらしづくり」の中で、方針2に示したとおり「様々な絆で支え合う」ことであり、周囲も含めて支え合いながら、支援の手を差し伸べていくということで、整理した。第三次長期総合計画では、福祉の中に高齢者が入っていたが、現状及び今後の想定から考え直す必要があるということを、市民の皆さんとも共有したいと考えている。東京都も、昨年末に長期ビジョンを公表したところであるが、長寿を共通言語にすると示している。健康づくり、認知症になる前の対策といった考え方を、これからどんどん出していく必要があると考えている。
委員	小平市には大学や大学校がある。一橋大学には海外留学生の寮があるなど、多摩地区の中でも外国人の割合が高い。外国人にも小平市の住みやすさを感じてもらいたい。小平市で勉強して、母国に帰って小平市の良さをピーアールしていただく。そうしたことも、議論できると良い。
委員	男女共同参画が基本目標Ⅱのくらしづくりの中に入っている。性別役割分担は課題として、骨子案の中に入れていただきたい。
事務局	今後、基本目標Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで想定される分野ごとに、課題や課題解決の方向性について討議していただく。いただいたご意見を踏まえ、検討題材を準備したい。
会長	基本目標Ⅱの方針1にある「誰もが尊重され活躍できる社会の実現」というのは、基本目標Ⅰにも関係する。男女共同参画、障がい者支援、多文化共生という理念が入った中で、ひとづくりをしていくことが重要である。基本目標Ⅲのまちづくりにも当然、バリアフリーや様々なサインを多言語で示すといった課題もある。こうしたことから、男女共同参画、障がい者支援、多文化共生は基本目標Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ全てに浸透させるような課題かと思う。
委員	資料 2①の「小平市を取り巻く状況」の中で、公共施設の老朽化に伴う更新ピーク到来との記載がある。公共施設の老朽化は恐ろしい速度でくるだろうし、今後統廃合が進められると思われる。基本目標Ⅰの中で、「全世代、元気にはつらつと過ごす」という方針はわからなくはないが、施設の統廃合が進む中で、増加する高齢者が生きがいを持てるような基本構想、公共施設のあり方を考えていかないと、高齢者のパワーがなくなってしまうのではないか。
事務局	多世代交流というキーワードや、スポーツは人と人を繋ぎ若い世代との交流も生まれるといったご意見もあった。基本目標Ⅰの方針2や方針3は多世代交流が進むようなことも視野に入れた。
委員	全世代と言いながらも、スポーツというと若い方が対象という感じがする。
会長	現在も、スポーツは70代、80代の方でもやっていらっしゃる。決して、若い方のみではないということは、私の身の回りを見ても感じている。
委員	人口構成には、大学や高校に通っている若い方の数は入っていないと思われる。潜在的に、小平市で過ごしている若者の数はかなり多いのではないか。そういった若

	者と出会う機会ということが、多世代交流のポイントにもなると思う。
委員	「めざす将来像」については、資料 2②も参考にしながら、今後審議会の中で決めていくというスケジュールなのか。
事務局	暮らしやすさ、ふるさと、発展活力など、まずは大きな方向性を整理しながら、具体的な表現に落とし込んでいくということで考えている。
閉会	